



2020年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年7月9日

上場会社名 株式会社 井筒屋

上場取引所 東 福

コード番号 8260 URL <http://www.izutsuya.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 影山 英雄

問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務グループ (氏名) 細迫 有文

TEL 093-522-3414

四半期報告書提出予定日 2019年7月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第1四半期の連結業績(2019年3月1日～2019年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第1四半期	16,608	11.9	220	1.1	161	39.3	73	24.3
2019年2月期第1四半期	18,852	1.1	217	1.3	115	81.7	96	81.7

(注) 包括利益 2020年2月期第1四半期 101百万円 (6.9%) 2019年2月期第1四半期 94百万円 (82.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第1四半期	6.38	
2019年2月期第1四半期	8.43	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年2月期第1四半期	52,621	7,744	14.7	675.93
2019年2月期	54,491	7,643	14.0	667.10

(参考) 自己資本 2020年2月期第1四半期 7,744百万円 2019年2月期 7,643百万円

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用したため、2019年2月期は、遡及適用後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期				0.00	0.00
2020年2月期					
2020年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年2月期の連結業績予想(2019年3月1日～2020年2月29日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	32,000	15.3	400	31.3	100	30.9	150		13.09
通期	65,000	17.7	1,200	12.3	600	24.5	300		26.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年2月期1Q	11,480,495 株	2019年2月期	11,480,495 株
期末自己株式数	2020年2月期1Q	23,364 株	2019年2月期	23,260 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年2月期1Q	11,457,183 株	2019年2月期1Q	11,457,305 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を及ぼす可能性のある重要な要因は、当社グループを取り巻く商圏動向、公的規制、自然災害・事故、金利の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2019年3月1日～2019年5月31日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、米中貿易摩擦の激化により、中国経済の減速が世界経済に与える影響等が懸念され、国内景気においても足踏み状態の様相も出始めるなど、先行きは不透明な状況が続いております。

百貨店業界におきましては、訪日外国人観光客の増加と富裕層の高額品消費が下支えとなり、大都市圏では緩やかな復調の兆しが表れてきました。一方、インバウンド需要の低い地方都市百貨店は化粧品など一部のカテゴリーは堅調なものの、都市圏と消費に温度差があり、総じて厳しい商況となりました。

こうした状況の中、当社グループにおきましては、中長期的な将来展望を踏まえ、経営資源の選択と集中を基軸とした「井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2019年度～2021年度)」を推進しております。

本店におきましては、本年3月より、「我々に出来る『最上』を届ける」意味を込めた「THIS IS」を企業メッセージとし、新しい井筒屋を発信しております。

本館では、「百貨店本来の上質な品揃えとサービスを追求する館」と位置付け、好調カテゴリーの強化に努めました。化粧品では新たに3ショップを導入し、九州最大級のブランド拡充を図っております。また、時計売場を下層フロアに移設し、国内外の新たなブランドを加え、増床リフレッシュオープンいたしました。6階では地域の魅力を新発見できる「Kitakyu Columbus(キタキュウ コロンブス)」、日本の伝統や美をテーマにした生活雑貨を集めた「kurasina(クラシナ)」といった自主編集ゾーンを拡充し、こだわりの品揃えを展開いたしました。地階食品フロアでは、惣菜や和菓子を中心に新たに6ショップをオープンいたしました。新館では、「若々しさと時代性を感じさせるショップ構成でトレンドをリードする館」と位置付け、カップル・家族でお買い物を楽しめるフロア構築をいたしました。3階は「ディーゼル」、「ビューティー&ユース ユナイテッドアローズ」など性別を問わず利用できる人気セレクトショップの導入をいたしました。また、4階では「日本百貨店」やオーガニックコスメ「エクランナチュレ」などの雑貨集積を図り、ライフスタイルを提案するフロアにいたしました。

サービス面では、上顧客様専用の「VIPラウンジ」新設をはじめ、ドアボーイ、パーソナルスタイリスト、ラッピングカウンターを導入し、「百貨店らしさの追求」を図ってまいりました。また、3月よりNTTドコモの「dポイント」利用・付与サービスを開始し、お客様の決済手段の多様化に対応することで、新たな顧客層の開拓に努めております。

黒崎店におきましては、8月の改装に向けた「売り尽くしセール」を5月からスタートし、多くのお客様にご来店いただいております。

山口店におきましては、アウトドア総合専門店ブランド「好日山荘」を新規オープンし、取扱いカテゴリーの充実と集客力の向上を図ってまいりました。3月にはゆめタウ

ン宇部内に宇部ショップをオープンさせ、多くのお客様にご好評いただいております。

第1四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、コレット・宇部店の店舗閉店に伴い売上高は16,608百万円(前年同期比88.1%)となりましたものの、営業経費の効率化により営業利益は220百万円(前年同期比101.1%)、経常利益は161百万円(前年同期比139.3%)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、宇部店に係る固定資産の売却益等がありましたものの、本店の売場改装に伴う固定資産除却損を計上したことにより、73百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益(前年同期比75.7%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて1,870百万円減少し、52,621百万円となりました。これは主に現金及び預金等が減少したことによるものであります。

負債については前連結会計年度末に比べて1,971百万円減少し、44,877百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金等の減少によるものであります。純資産は、前連結会計年度末に比べて101百万円増加し、7,744百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の業績予想につきましては、2019年4月10日公表の通期業績予想から変更はありません。

(注) 上記の業績予想は、この資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,400	4,494
受取手形及び売掛金	2,070	2,058
有価証券	300	—
商品	2,801	2,711
貯蔵品	19	19
その他	689	1,104
貸倒引当金	△12	△17
流動資産合計	12,271	10,372
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,016	12,484
土地	24,114	24,011
その他(純額)	496	651
有形固定資産合計	36,627	37,146
無形固定資産	170	156
投資その他の資産		
差入保証金	3,694	3,197
その他	1,940	1,963
貸倒引当金	△212	△216
投資その他の資産合計	5,422	4,944
固定資産合計	42,220	42,248
資産合計	54,491	52,621

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,044	5,887
短期借入金	11,859	11,333
未払法人税等	—	32
前受金	7,435	7,196
事業構造改善引当金	938	881
その他の引当金	301	381
資産除去債務	155	43
その他	3,689	3,735
流動負債合計	31,424	29,492
固定負債		
長期借入金	9,985	10,177
再評価に係る繰延税金負債	2,874	2,874
商品券回収損失引当金	777	766
事業構造改善引当金	16	16
退職給付に係る負債	1,058	1,020
資産除去債務	252	196
その他	458	332
固定負債合計	15,423	15,384
負債合計	46,848	44,877
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,532	10,532
資本剰余金	11,904	11,904
利益剰余金	△20,471	△20,398
自己株式	△27	△27
株主資本合計	1,937	2,010
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24	19
土地再評価差額金	5,766	5,766
退職給付に係る調整累計額	△85	△52
その他の包括利益累計額合計	5,705	5,733
純資産合計	7,643	7,744
負債純資産合計	54,491	52,621

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年5月31日)
売上高	18,852	16,608
売上原価	14,405	12,740
売上総利益	4,447	3,867
販売費及び一般管理費	4,229	3,647
営業利益	217	220
営業外収益		
受取利息	2	4
持分法による投資利益	50	32
協賛金収入	8	63
未回収商品券受入益	68	67
受取賃貸料	17	17
その他	35	52
営業外収益合計	183	238
営業外費用		
支払利息	112	104
売上割引	96	96
商品券回収損失引当金繰入額	43	46
地代家賃	1	1
その他	30	49
営業外費用合計	285	297
経常利益	115	161
特別利益		
固定資産売却益	—	28
資産除去債務戻入益	—	51
特別利益合計	—	80
特別損失		
固定資産除却損	16	178
特別損失合計	16	178
税金等調整前四半期純利益	99	62
法人税、住民税及び事業税	9	6
法人税等調整額	△6	△17
法人税等合計	2	△10
四半期純利益	96	73
親会社株主に帰属する四半期純利益	96	73

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
四半期純利益	96	73
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△1
退職給付に係る調整額	△0	33
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△3
その他の包括利益合計	△1	28
四半期包括利益	94	101
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	94	101
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。